



今年度は附属小の  
「創立150周年」です。  
ワクワクでいっぱい年にしていきます！

令和6年度 附属小学校だより

# スマイル<sup>4</sup>ふぞく



第6号 令和6年10月31日（木） 校長 古野 祐一

## 150周年に永瀬選手が来てくれました！

10月25日（金）の14時から約1時間、パリ柔道競技81kg級で2大会連続の金メダルを獲得した永瀬貴規（ながせ たかのり）選手が来てくださいました。平成17年度に附属小を卒業された永瀬選手。附属小に来るのは、卒業以来かもと話され、懐かしく卒業アルバムを見られていました。

この日は、午前中に「長崎県県民栄誉賞 特別賞」の表彰式、「長崎市栄誉市民」の称号を授かる顕彰式に出席され、そのまま附属中から附属小へと来校。永瀬選手の小学校時代に私も在籍していましたが、面影はそのままに、話した印象は謙虚で飾らない人柄が伝わってきました。多くの人から慕われる理由がよく分かりました。当時の担任をした先生方のコメントを紹介します。

- ・気持ちよく使える教室にしようと心掛け、隅々のチリまで掃き集める丁寧な掃除をしていました。
- ・「一緒に遊ぼう」と、誰に対しても公平に接し、「いいよ」と失敗を優しく包み込む言動が見られ、学級のリーダーとしての役割をはたしていました。

永瀬選手の誠実な人柄が伝わりますね。

さて、会の中では、子供たちから出された質問に答えていただく形式で進めていきました。3年生の「どうしたら『やりたくない』が『やる気』に変わりますか？」という質問の回答を紹介します。

「目標を立てることです。どうして今これをやっているか考え、自分の目標を達成するためには、ここで休んだら達成できないと、自分に言い聞かせて、気持ちを切り替えて頑張っていくことが大切だと考えます。」

また、4年生の「大切にしている言葉は？」という質問の回答は、、、

### 「継続は力なり」

「どんなことも一日だけ頑張ってもできない。金メダルを取れたのも長く続けたから獲得できた。皆さんも毎日の積み重ねを大切にしてほしい。」

北斗の子の偉大な先輩が伝えてくれた素敵なメッセージをしっかりと心に留めて、皆で受け継いでいきましょう！



永瀬選手を囲んで全員でハイポーズ！



永瀬選手と3年生の勝負は3年生の勝ち！



ステージ上で質問に答える永瀬選手。



永瀬選手を間近で見送る子供たち。

※裏面に続きます！

# 子どものちから

10月27日(日)の学校公開における学校紹介を、6年生に任せることになりました。原稿・プレゼン制作から、リハーサルまで、「自分たちの学校は自分たちで創る」を体現してくれました。

今回の6年生の姿や、入学式で迎える言葉を述べる6年生の姿、節目の式での代表挨拶児童には、必ず相手意識があります。原稿を見ることなく、自分の言葉で語りかけるからこそ、聞く人に言葉が届きます。ここに至るまでには、時間を掛け、何度も練習をする必要があります。当日、子どもが一番輝くことを知っているのも、関わる教職員も妥協はありません。

## 力を発揮するために

「鍛える」という言葉が避けられる昨今ですが、妥協せず、子どもができるまで何度も何度も関わることは、子どもの可能性を引き出す大切な営みです。

また、力を発揮できる最後の最後まで関わることは、代表児童に立候補した子どもへの、私たち教職員の責任であると私は考えます。

子どもに任せる。そのために、確かな力を身に付けることができるようにする。この両面があるからこそ、代表挨拶、体育行事、公共の場での姿、そして2月の研究発表会、北斗の子どもが本番で力を発揮できるのです。

確かな力を身に付けた、自分たちの学校は自分たちで創る子どもを支えていきます。

教頭 橋田 晶拓

## 教えから学びへ<sup>2</sup>

### 新たな価値の創出

先日の学校公開、在校生保護者の皆様には、校舎配置図・公開授業一覧をQRコードからご覧いただき、一般参観者の皆様には、同じくQRコードでの受付を実施いたしました。おかげさまで、ペーパーレスやスムーズな入場が可能となりました。御協力、ありがとうございました。



さて、学校公開を終えた午後、職員は何をしていたかというところ…文部科学省「学校DX戦略アドバイザー」の株式会社NEL&M代表取締役 田中康平様をお招きし、現職教育を行いました。前述したQRコードの様なデジタル化による業務の効率的な改善に加え、新たな価値を創出するための生成AI等先端テクノロジーの活用法を習得することを目指した研修会です。操作演習を通して、学習計画や問題の作成、アンケート分析等のAI活用法を学ぶと共に、「AIを活用することで、子どもにどんな力を育みたいか」という教師としての役割の在り方を改めて振り返る機会とすることができました。

生成AI活用によって新たな価値を生み出し、本年度研究をますます加速させていきます。

主幹教諭 松尾 勇哉

## 身近な幸せ

### 子どもの参画を支える、心強い味方

この写真は、先日の環境整備活動の様子です。北斗の丘だけでなく、中庭や体育館の周りなど、保護者の皆様に徹底的に整えていた



いただきました(ヤギも手伝いました)。参加の申込みをしていただいた保護者の数は、なんと、109名。平日にもかかわらず、これだけ多くの方に協力の思いを示していただいたことに大きな幸せを感じました。ありがとうございました。

また、27日の学校公開では、合計1092名の方々に来校していただきました。そのうち、673名の保護者の皆様に御参観いただきました。我が子の様子を参観できる限られた機会であるとは言え、実に多くの方に足を運んでいただき、学校の様子を体感していただけたことは、私たちにとっても心強く、今後の教育活動の励みになります。

学校は、教師の力だけでは楽しい場所にできません。だからこそ、「子どもの参画」を合言葉に掲げていますが、その挑戦を支える役割を、保護者の皆様にも担っていただけていることを強く感じた秋の行事でした。11月29日の北斗祭も楽しみです。

教務主任 野口 拓也